

交通の発達と三都

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

交通が発達した江戸時代、三都はどのような役割を持ったろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 陸の道と海の道

陸と海の交通

ごかいどう 五街道

江戸の日本橋を起点とする東海道など5つの街道。

せきしよ 関所

街道の要所で人や荷物を取り調べた所。

ひがきかいせん 菱垣廻船

大阪から江戸へ日用品などを運んだ船。

幕府は、江戸の日本橋を起点に東海道・中山道など**五街道**を整えた。街道には**宿場**が置かれて、旅人が泊まったり、荷物を運ぶ人や馬を乗りついでりした。要所の**関所**では通る人や荷物が取り調べられ、とくに江戸に入る鉄砲と、江戸から出る女性がきびしく調べられた。参勤交代の大名行列もこれらの街道を通り、宿場町は人の行き来でにぎわった。

重い荷物は、一度に多く運べる船で運ばれた。東北地方や北陸の米は、日本海から大阪(大坂とも書く)へ回る**西廻り航路**や、太平洋を通過して江戸へ向かう**東廻り航路**で運ばれた。大阪と江戸の間には、日用品などを積む**菱垣廻船**や、酒を積む**樽廻船**が行き来した。こうして全国の産物が、大阪や江戸へ集まるようになった。

2 三都のにぎわい

江戸・大阪・京都

くらやしき 蔵屋敷

諸藩が大阪などに置き、年貢米や特産物を保管・販売した屋敷。

かぶなま 株仲間

商人などの同業者の組合。営業を独占した。

りょうがえしやう 両替商

金・銀・銭の交換や、お金の貸し付けをした商人。

江戸、大阪、京都は**三都**と呼ばれた。江戸は「将軍のおひざもと」と呼ばれた政治の中心で、大名の屋敷が立ち並び、多くの武士や町人が住んで、18世紀には人口が約100万人に達した。大阪は全国の物資が集まる商業の中心で、**天下の台所**と呼ばれた。諸藩は大阪に**蔵屋敷**を置き、年貢米や特産物を売ってお金にかえた。大阪からは、木綿・油・酒などの品物が船で江戸へ大量に送られた。

京都には朝廷や多くの寺社があり、西陣織などの工芸や学問・文化の中心として栄えた。商人は同業者で**株仲間**をつくり、幕府や藩に税を納めるかわりに営業を独占した。東日本では金、西日本では銀がおもに使われたため、その交換や貸し付けを行う**両替商**が大きな力を持った。

都市	役割
江戸	将軍のおひざもと。政治の中心で、人口は約100万人
大阪	天下の台所 。商業の中心で、諸藩の蔵屋敷が集まる
京都	朝廷がある。西陣織などの工芸と文化の中心

問いへの答え

江戸時代には、五街道や宿場などの陸の交通と、西廻り・東廻り航路や菱垣廻船などの海の交通が整い、人や物資の行き来がさかんになった。三都のうち、江戸は将軍のおひざもとの政治の中心、大阪は諸藩の蔵屋敷が集まる天下の台所とよばれた商業の中心、京都は朝廷があり工芸や文化の中心という役割を持った。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

